

■ ■ ■
□原色版『臺灣の沿岸』は同氏最近の作にして、ワットマン八ツ切大に御座候。

■『谿』はミツ川を寫されしものにて、原畫はワットマン九ツ切に候。

□『裏畑』前に早稻田の裝飾美術展覽會に出品致されしものにて、やゝ明白過ぎ爲めに原畫の趣を失ひ候、所藏者池田氏が特に本誌の爲め貸與せられしは深く謝するところに候。

□『パンヂー』今年四月中の習作の一にて、ワットマン八ツ切大に御座候。

□來月號挿畫には、故青木繁氏の『春』並に『よもつの國』を掲載の筈にて『春』は原色版『よもつの國』は寫眞版と致すべく候。其他篠原氏の『洗濯』山本森之助氏の『甲州御嶽』大下氏の『劇の背景』を出すべく、山本氏の水繪は珍重すべきものにて本誌の爲に特に貸與せられしものに候。『劇の背景』は故人が山崎紫紅氏の依頼に應じて執筆されしものにて、山崎氏が秘藏の品にて候。

□本號を展覽會號とせし爲め諸家よりの寄稿を掲載する能はざりしは非常に残念とする所にて、次號には石川氏の『中學生と水彩畫』山崎氏の『劇の背景』(一)、磯氏の『私に畫が描けたら』(二)、鶴澤氏の『續三脚物語』(四)、其他全部掲載の筈にて候。

□齋藤與里氏、板本繁次郎氏、柳敬助氏は今回本誌の賛助員たる事を許容され今月より寄稿せらるゝ事と相成り候。

□雜誌御注文の節は必ず何號よりと其の號數を御指定願ひ度、御忘れなき様御注意被下度候。

□繪畫に何等の關係なき紀行の如きは採用致し兼ね候間其の様なものは御見合せ被下度候。

□會友にて特約店文房堂の割引券御入用の方は、郵券御拂込み被下度、引換御送付致すべく候。

讀者の領分

僕は一昨年頃からの「みづる」耽溺者だ、月を迎へると共に「みづる」が發展してゆく過去を歡び將來を樂んでゐる、長く此めしひの手を曳いて多少勝手のわかるまでなりとも導いて貰ひたいが萬々の願なのだ。こんな有様で小言を云ふのは甚だ恐れ入るが、慈母にあまへて云つて見やう。前號で誰かゞ云つた様に記事を載せる紙を今少し悪くして何かの方面に擴げて戴きたい。それから何號であつたかは忘れたが故大下先生が春鳥畫談と題して吾々の決心を促されたそれを讀んだ僕はやつきとなつて其晩はどうしても目がさへて眠れなかつた、每號の挿繪で勵まされてゐる其上に成文で心肝に深く銘せられたのだ願はくば此後の誌上で直接に露はに諸先生の意を成文として記載して戴きたい。(宮崎の讀者)小生上等狸毛所持す水彩筆に製してくれる處なきや文房堂其他に問ふ。(大阪洗帆生)私は水繪の四十二年、五〇號頃からの讀者であり、